

著者紹介

■ 伊藤 徳也（いとう・のりや）

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化コース教授。専門は近現代中国文学。周作人を中心に、文学言語、言説、日中文化交流史を研究する。著書に、『「生活の芸術」と周作人—中国のデカダンス＝モダニティ』（勉誠出版、2012年）、『周作人と日中文化史』（勉誠出版、2013年）、代表的な論文に、「周作人に於ける“人情物理”（“物理人情”）其二—『徒然草』翻訳、魯迅への諷刺、「知堂」命名—」（『周作人研究通信』11、2020年）、「遍在する良い頽廢—部分と全体の審美関係」（『中国21』vol.50、2019年）、「周作人における“人間”とその多義性—日本語との関わりについて」（『野草』98、2016年）、「耽美派と対立する頽廢派—1923年の周作人と徐志摩、陳源」（『アジア遊学』164、2013年）、「林語堂の自己形成——初期の文化意識を中心に」（『従林語堂研究看文化的相融／相涵国際学術研討会論文集』、2007年）、「近代中国における文学言語」（『漢字圏の近代』、東京大学出版会、2005年）などがある。

【編集後記】

東京大学ヒューマニティーズセンター（HMC）より、Humanities Center Booklet, Vol. 10をお届けします。

本号は、2019年12月23日に開催されたHMCオープンセミナー第21回「『生活の芸術』と『生の技法』」、ならびに2020年9月25日にオンラインで行われたHMCオープンセミナー第26回「周作人と日本文学」の講演録です。その内容は、現代中国作家の周作人に注目しながら、1910年代から1980年代までの現代中国社会がどのように日本文藝を受容してきたのかを明らかにする日中文化交流論となっています。

セミナー開催ならびにブックレット作成に当たって、伊藤徳也先生には企画段階からご尽力いただきました。また、本号の文字起しに当たり、速記センターつくば様にご尽力いただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

HMC事務局（川村朋貴）

Humanities Center Booklet Vol. 10

「生活の芸術」と「生の技法」／周作人と日本文学

伊藤徳也

2021年5月10日発行

編集発行者 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学附属図書館4階

ISSN 2434-9852

印刷者 株式会社サンワ

フォーマットデザイン 株式会社編集家族

©東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター